資料1

一宮市6次産業化・地産地消推進協議会委員名簿

2025年6月1日現在

	役員	名　前	所　　属	区　　分
1	委員	田中　秀吉	修文大学　教授	「学識経験者」
2	委員	出口　とも子	一宮生活協同組合　組合員理事	「消費者及び関係団体」
3	委員	青山　真由美	一宮市農業委員会　委員	「生産者及び関係団体」
4	委員	加藤　初美	農村生活アドバイザー	「生産者」
5	委員	青柳　勝	一宮商工会議所　企画事業部長	「流通関係団体」、「商工会議所」
6	委員	山田　武雄	愛知西農業協同組合　生活部長	「農業者団体」
7	委員	吉田　正巳	愛知西農業協同組合　金融部長	「農業者団体」、「金融機関」
8	委員	今村　将寛	一宮市教育部学校教育課　指導主事	「教育関係機関」
9	委員	石田　浩貳	一宮市学校給食会　理事長	「教育関係機関」
10	委員	神谷　千絵	一宮市保健所健康支援課　栄養士	「行政関係機関」

一宮市６次産業化・地産地消推進協議会設置要綱

（設置）

第１条　一宮市の様々な地産品・技術・交通を活用して「攻めの地産地消」（６次産業化や連携など）を進める農業者等を応援し、同時に既存の農業経営を安定させることにより、新たな産業創出と安心・安全な地産品の提供を進め、市民生活の向上に資するため、「一宮市６次産業化・地産地消推進協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

（委員の数等）

第２条　協議会は、１０人以内の委員をもって構成し、次に掲げる者のうちから活力創造部長が委嘱する。

（１）　学識経験者

（２）　消費者及び関係団体

（３）　生産者及び関係団体（農業者及び食品製造事業者等）

（４）　流通関係団体（小売業、卸売業等）

（５）　農業者団体

（６）　金融機関

（７）　商工会議所

（８）　教育関係機関

（９）　行政関係機関

（１０）　前号に掲げる者の他、活力創造部長が必要と認める者

２　委員の任期は、委嘱の日より３年間とする。ただし，任期の途中で委員の交代があった場合は，後任者の任期は前任者の残任期間とする。また、再任を妨げない。

３　委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはいけない。その職を退いた後も同様とする。

（役員及び職務）

第３条　協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により選任する。

２　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

３　会長に事故のある場合は、副会長がその職務を代行する。

４　協議会は、必要があると認めるときは、議事に関係のある者に出席を求め、その意見及び説明を聴くことができる。

（報酬）

第４条　委員が協議会に出席した場合は、報酬を支給するものとする。ただし、行政職員については、前段の規定に係わらず報酬は支給しないものとする。

２　委員に対する報酬の支給額は、協議会への出席１回につき、５，０００円とす

る。

（庶務）

第５条　協議会の庶務は、活力創造部農業振興課において処理する。

（その他）

第６条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って別に定める。

付　則

この要綱は、平成２８年１月４日から施行する。

付　則

この要綱は、令和３年４月１２日から施行する。

資料2

2025年度「いちのみや野菜プロジェクト」活動報告について

「いちのみや野菜プロジェクト」は、一宮市6次産業化・地産地消推進計画【第2期】の計画期間に合わせて2019年度にスタートした事業で、「野菜の摂取を増やそう」「地元農産物を知って食べてもらおう」など、地産地消や地元農産物のPRを行っています。

ここでは、2025年度に「いちのみや野菜プロジェクト」として取り組んだ事業について報告します。

138マルシェ

138 マルシェを夢織り広場にて毎月第 3 水曜日に実施しました。愛知西農業協同組合・一宮市女性農業者会議・尾張一宮4Hクラブの会員が、野菜や加工品等を販売しました。

地産地消～いちみんと、愛をコメて～138 マルシェ×JA 愛知西

10 月 13 日にイオンモール木曽川にて、「地産地消」をテーマに、マドレーヌにチョコペンでデコレーションをするワークショップを開催しました。マドレーヌについては、地元で栽培されている「あいちのかおり」の米粉や一宮市産の卵が材料として用いられた「いちみんマドレーヌ」を使用し、参加者に対し地産地消の啓発を行いました。

ワークショップの他に、同イベント会場内にて、お米の栽培についての各工程がフローチャート形式で簡潔にまとめられたポスターの展示、地元産「あいちのかおり」が使われている米粉パンやマドレーヌの販売、138 マルシェの PR 用のチラシやポケットティッシュの配布を行いました。

さらに、ワークショップ参加者やイベント会場来場者を対象に、地産地消についてのアンケートも併せて実施しました（別紙参照）。アンケートでは、「農産物を購入する際に、地産地消について意識しているか」や「地産地消を推進のためにはどんなことが必要か」等を質問項目として設定し、地産地消についての現状理解及び課題解決に向けた市民ニーズの把握に努めました。

第 2 回いちのみやフォトロゲイニング

12 月 7 日に開催された、一宮商工会議所が主催する第 2 回いちのみやフォトロゲイニングイベントへの参加者に配付するモーニングメニューに野菜を提供しました。

修文学院高等学校は「元気もりもりトルティーヤ」、一宮商業高等学校は「でらうま！親子愛カツサンド」を考案・調理し、約 200 名の参加者へモーニングを提供しました。

いちのみや野菜プロジェクトとして、愛知西農業協同組合生活部からホウレン草、一宮市女性農業者会議からじゃがいも、ブロッコリー、人参、サツマイモ、キャベツ、大根といった一宮市産の野菜を提供してもらい、地元で栽培されている野菜について参加者や高校生に認知してもらうための契機となるよう周知をしました。また、イベント会場内に地産地消の推進についての PR ブースを設け、いちのみや野菜プロジェクトの周知も併せて実施しました。

- 修文学院高等学校「元気もりもりトルティーヤ」

- 一宮商業高等学校「でらうま！親子愛カツサンド」

（別紙）

アンケート調査集計結果

【調査の目的】

地産地消について、現状抱えている課題や課題解決に向けた意識醸成のための市民ニーズの把握

【調査の方法】

イベント会場来場者に対するアンケートの直接配付及び回収

【有効回答数】

86 名

【集計結果概要及び今後の展望】

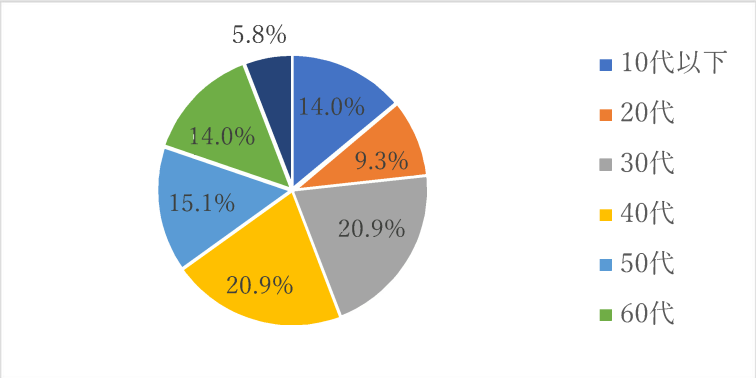
農産物購入時の地産地消意識の有無については、意識しているとした人は回答者の全体のうち半数にとどまり、意識していない理由としては「産地にこだわりがない」と答えた人が最も多く、地産地消に対する関心の薄さも一部見受けられます。

地産地消を推進するために必要なこととしては、「売り場でのアピール」が最も多く、次いで「イベントの開催」や「取扱店舗の充実」、「地元農産物及び購入場所に関する情報発信」が挙げられ、市としても地産地消の推進に協力的な店舗の紹介用ウェブページの開設など、更なる推進に向けて取り組んでいく予定です。

【集計結果】

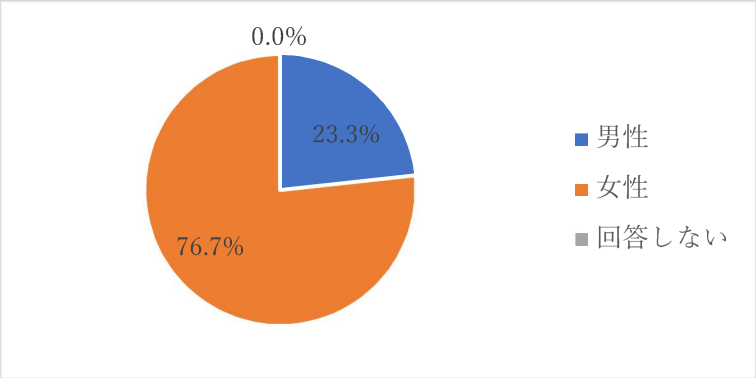
Q　あなたの年齢を教えてください。

	10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	計
回答数	12	8	18	18	13	12	5	86
構成比（%）	13.96	9.31	20.93	20.93	15.11	13.95	5.81	100



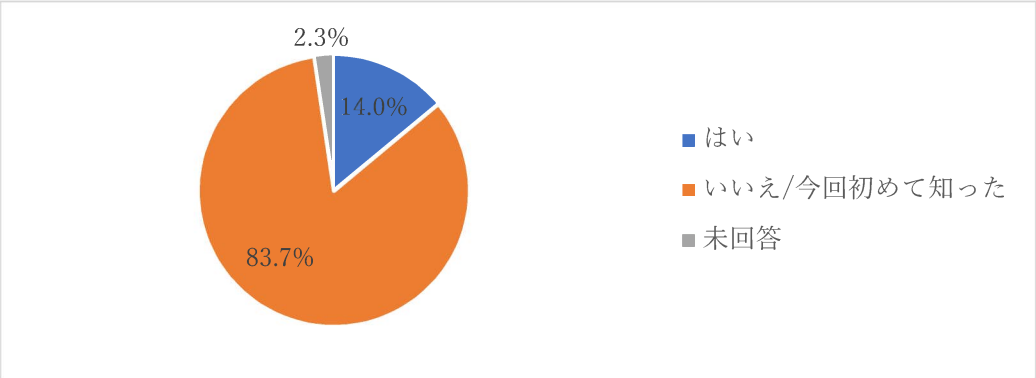
Q　あなたの性別を教えてください。

	男性	女性	回答しない	計
回答数	20	66	0	86
構成比(%)	23.26	76.74	0	100



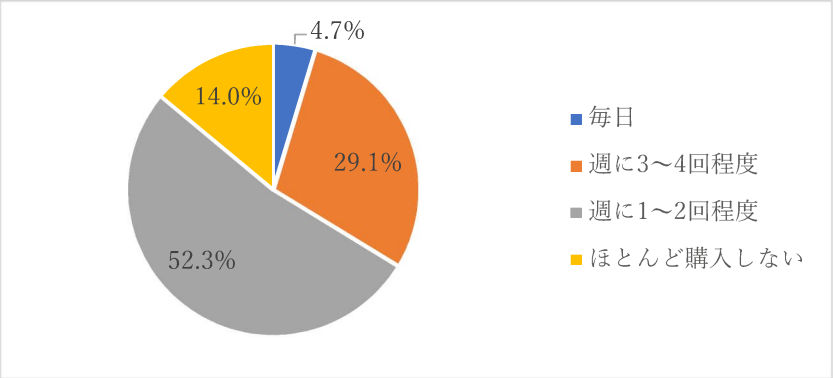
Q　いちみんマドレーヌは、地元のお米「あいちのかおり」100%の米粉や一宮産の卵などを使用して作られていることを知っていましたか。

	はい	いいえ/今回初めて知った	未回答	計
回答数	12	72	2	86
構成比(%)	13.95	83.72	2.32	100



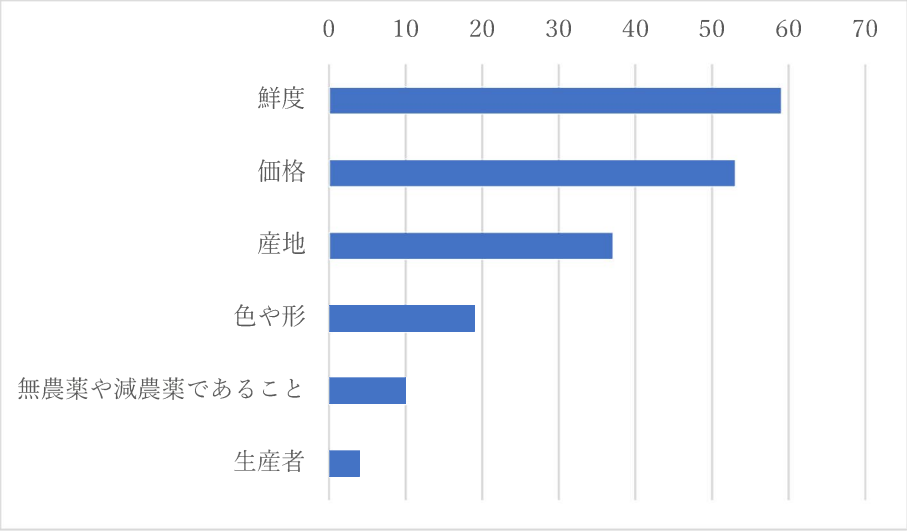
Q　農産物（野菜、くだものなど）の購入頻度

	毎日	週に 3～4 回程度	週に 1～2 回程度	ほとんど購入しない	計
回答数	4	25	45	12	86
構成比（%）	4.65	29.07	52.32	13.96	100



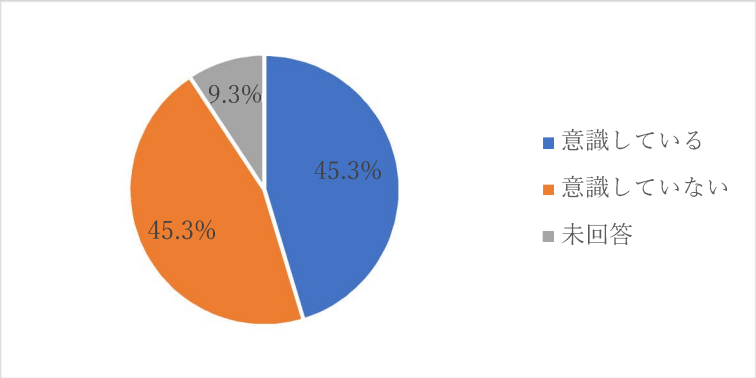
Q　農産物を購入する際に、意識していること(複数回答可)

	鮮度	価格	産地	色や形	無農薬や減農薬であること	生産者	その他
回答数	59	53	37	19	10	4	0



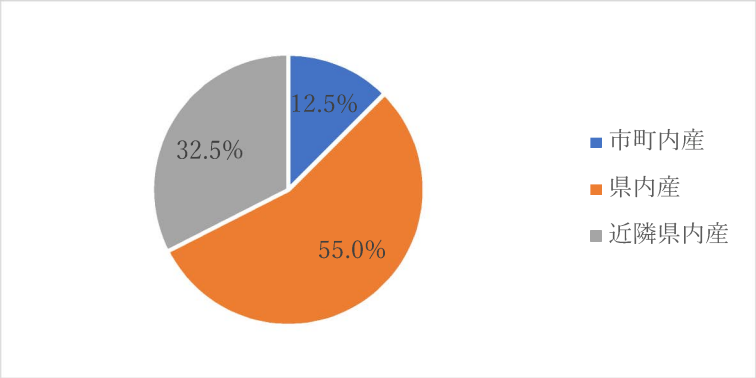
Q　農産物を購入する際に、地産地消について意識していますか。

	意識している	意識していない	未回答	計
回答数	39	39	8	86
構成比(%)	45.35	45.35	9.3	100



Q　産地について、どの範囲の農産物を優先的に購入していますか。(1つ選ぶ)

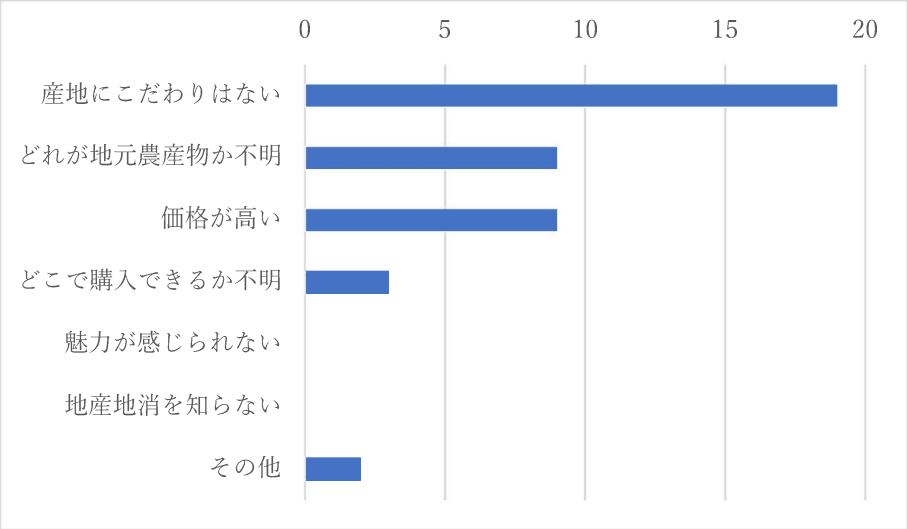
	市町内産	県内産	近隣県内産	計
回答数	5	22	13	40
構成比(%)	12.5	55	32.5	100



Q　地産地消を意識していない理由を教えてください。（複数選択可）

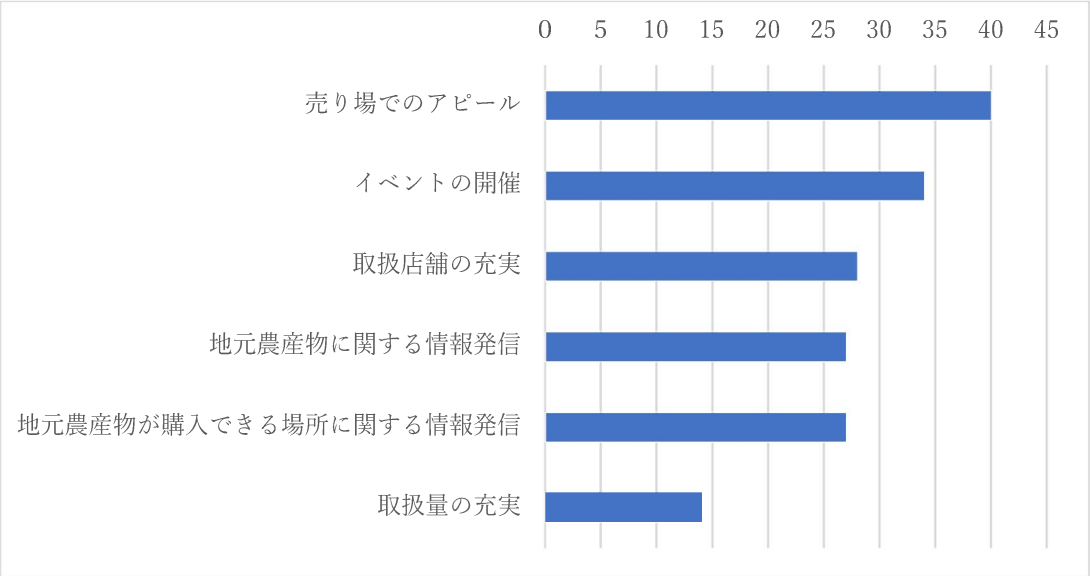
	産地にこだわりはない	どれが地元農産物か不明	価格が高い	どこで購入できるか不明	魅力が感じられない	地産地消を知らない	その他
回答数	19	9	9	3	0	0	2

【その他意見概要】　国産であればよい



Q　地産地消を推進するためにはどんなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

	売り場でのアピール	イベントの開催	取扱店舗の充実	地元農産物に関する情報発信	地元農産物が購入できる場所に関する情報発信	取扱量の充実
回答数	40	34	28	27	27	14



地産地消～いちみんと、愛をコメて～138 マルシェ×JA 愛知西　アンケート

ご来場いただき、誠にありがとうございました。
地産地消の推進を目的に、お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。

※地産地消とは、その地域で生産された農林水産物（食べ物）をその地域内で消費することです。

１．あなたの年齢を教えてください。

10 代以下　・　20 代　・　30 代　・　40 代　・　50 代　・　60 代　・　70 代以上

２．あなたの性別を教えてください。

男性　・　女性　・　回答しない

３．どちらからお越しですか？

県　　市・町　　・　回答しない

４．イベントの満足度を教えてください。

非常に満足　・　満足　・　やや不満　・　不満

５．いちみんマドレーヌは、地元のお米「あいちのかおり」100%の米粉や一宮産の卵などを使用して作られていることを知っていましたか。

はい　・　いいえ　・　今回初めて知った

６．農産物（野菜、くだものなど）の購入頻度を教えてください。

毎日　・　週に 3～4 回程度　・　週に 1～2 回程度　・　ほとんど購入しない(設問 11 へ進む)

７．農産物を購入する際に、意識していることはありますか。（複数選択可）

価格　・　産地　・　鮮度　・　色や形　・　無農薬や減農薬であること　・　生産者
その他（　　）

８．農産物を購入する際に、地産地消について意識していますか。

意識している　→　設問９へ進む　・　意識していない　→　設問 10 へ進む

裏面に続く

（設問８で地産地消を「意識している」と回答した方へ）

９．産地について、どの範囲の農産物を優先的に購入していますか。（１つ選ぶ）

市(町)内産　・　県内産　・　近隣県内産

（設問８で地産地消を「意識していない」と回答した方へ）

10．地産地消を意識していない理由を教えてください。（複数選択可）

どれが地元農産物か不明　・　どこで購入できるか不明　・　価格が高い

魅力が感じられない　・　産地にこだわりはない　・　地産地消を知らない

その他（　　）

（これ以降は全員ご回答ください）

11．地産地消を推進するためにはどんなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

地元農産物に関する情報発信　・　地元農産物が購入できる場所に関する情報発信

イベントの開催　・　売り場でのアピール

取扱店舗の充実　・　取扱量の充実

その他（　　）

12．地産地消や、今回のイベントについてご意見がありましたらご記入ください。

＜ご協力ありがとうございました＞

資料3

一宮市６次産業化・地産地消推進計画【第３期】進捗状況について

一宮市６次産業化・地産地消推進計画【第 3 期】（以下、計画という。）には、目標を達成するため、以下のような「基本方針」と「施策」が示されています。

この各施策 1～8 には具体的な事業が位置付けられ、その事業の中で数値として施策の進み具合を確認できるものを「数値目標」として掲げています。

計画の進捗状況を見るために、2026（令和 8）年 1 月現在の実績について、数値目標を中心に報告します。

基本方針と施策

安心・安全な農林水産物供給の維持・拡大
- 1. 新規就農者や後継者の育成
- 2. 多様な担い手の育成
- 3. 農地の集積・集約化
- 4. スマート農業の推進
- 5. 環境に配慮する農業の推進

地産地消の推進と販売機会の拡大
- 6. 地産品を食べる機会の増加
- 7. 食農教育の充実と地産地消意識の醸成

新たな取り組みによる収益性の確保
- 8. ６次産業化や農商工連携等の推進

数値目標

安心・安全な農林水産物供給の維持・拡大

施策①　新規就農者や後継者の育成

指　標	計画策定時 2023（令和 5）	現状 2025（令和 7）	目標 2028（令和 10）
新規就農者数	13 人 （直近 5 か年累計）	3 人 （直近 2 か年累計）	15 人 （5 か年累計実績）

2024（令和 6）年度は、はつらつ農業塾卒塾生が 1 名、その他研修機関での研修修了生が 1 名、親元就農が 1 名。なお、2025（令和 7）年度は 0 名。

施策③　農地の集積・集約化

指　標	計画策定時 2023（令和 5）	現状 2025（令和 7）	目標 2028（令和 10）
農地集積率	11.5%	11.6%	14%

農地集積率とは、担い手への集積面積（特定農作業受委託面積と利用権設定面積の合計）を一宮市内の市街化調整区域の全農地面積で除した率。

施策⑤　環境に配慮する農業の推進

指　標	計画策定時 2023（令和 5）	現状 2025（令和 7）	目標 2028（令和 10）
環境保全型農業直接 支払交付金取り組み面積	4.2ha	5.8ha	8ha

一宮市では、3 団体が緑肥の施用や有機農業の取り組みを実施。

地産地消の推進と販売機会の拡大

施策⑥　地産品を食べる機会の増加

指　標	計画策定時 2023（令和 5）	現状 2025（令和 7）	目標 2028（令和 10）
産直会員数	1,200 人	1,292 人	1,400 人
「一宮を食べる学校給食の日」実施数	3 回	3 回	3 回

施策⑦　食農教育の充実と地産地消意識の醸成

指　標	計画策定時 2023（令和 5）	現状 2025（令和 7）	目標 2028（令和 10）
提供地産品による啓発人数	100 人	12 人	150 人

啓発人数とは、一宮市及び関係団体主催の、地産地消を推進する料理教室への参加人数の合計。2025（令和 7）年度は、農産加工研修会を開催。昨年度まではこどもクッキングいちのみや、親子でやさしいクッキング教室の参加人数も含めていたが、昨今の米不足の情勢に伴い、今年度は米の提供を中止したため、例年と比べ少ない人数となった。

新たな取り組みによる収益性の確保

施策⑧　６次産業化や農商工連携等の推進

指　標	計画策定時 2023（令和 5）	現状 2025（令和 7）	目標 2028（令和 10）
６次産業化認定事業数	4 件	4 件	5 件